

2016 年度 修士論文要旨

コアアフェクトモデルに基づくライダーの感情状態の タイプ推定

関西学院大学大学院理工学研究科

人間システム工学専攻 長田研究室 今井将太

近年、製品の高機能化が進み、機能面で顕著な差が見られなくなったことから、消費者は新たな付加価値を求めるようになってきた。バイクの分野においても例外ではなく、「ドライビングプレジャー」という言葉が浸透してきており、「乗っているとわくわくする」「もっと乗っていたい」などといった欲求を形にすることが強く求められている。こうした運転の楽しさや興奮といった要因を明らかにするにあたって、これまでの研究ではハンドリングなどの性能面に依存するといった仮定のもとで議論がされてきた。しかし、バイクは趣味性が高いモビリティであり、ユーザの性質や価値観、ライフスタイルも多種多様で複雑であるため、心理的要因や個人特性も考慮した上で解明する必要がある。

本研究では、ライダーがどんな状況に対し、どのような感情を喚起するか、コアアフェクトモデルに基づき推定することを目的とする。まず、ライダーのバイクに対する価値構造を評価グリッド法により分析し、同時にバイク乗車時の感情を表す評価語を収集した。その次に、得られた評価語が快-不快、覚醒-鎮静のコアアフェクトモデル上の二次元空間上で、どの位置に付置されるのか評定実験を行い、ライダー版感情円環モデルを構築した。さらに、画像印象評価実験に用いるための評価尺度を作成した。最後に、バイク走行画像を用いた印象評価実験を行い、ライダーの感情喚起要因の分析を行った。

その結果、快感情においては、バイクカテゴリと背景の要因が感情喚起に大きく影響していることが分かり、不快感情においては、バイクカテゴリ、運転状態、背景の要因が複雑に作用していることが分かった。個人差を考慮した分析（クラスター分析と決定木分析）を行い、各クラスターのライダーがどのような要因に影響して感情を喚起するのか、各クラスターに属するライダーの性質を明らかにした。その結果、ライダーは「旅人ツーリングライダー」「スポーツバイクライダー」「評論家・固定観念ライダー」「多趣味ツーリングライダー」「成熟途上ライダー」5クラスターに分類することができ、それぞれのクラスターで感情想起タイプが異なり、ライダーの感情喚起タイプの多様性を示唆するものになった。